

第14回「日本語大賞」

テーマ 私が^{だいじ}大事にしている言葉

中学生の部 優秀賞 受賞作品

「世界にほこれる

日本にしかない言葉」

茨城県

つくばインターナショナルスクール

九年 メイヤーズ 永真

特定非営利活動法人 日本語検定委員会

私はきれいなラッピングペーパー、箱などは捨てずに取っておいて工作に使ったり、再利用したりするのが好きです。小さくなった洋服、読み終わった本、使わなくなったオモチャなどを手放す時には使ってもらえる人にあげたり、リサイクルしたりするようにしています。ゴミとして処分するのは最小限にしたいと思っています。私のこの行動はいつも「もったいない」という気持ちから来ています。

私はこの「もったいない」という言葉が大好きです。「もったいない」は「価値あるものが粗末にされて惜しい」という意味があるそうです。食べ物を残したり、まだ使えるものを捨ててしまったりする時に使われるこの言葉は日本語特有で、英語に訳すことが難しいと言われています。その難しさは「価値があるもの」の部分にあると思います。ものに価値があるかは個人の受け止め方によってそれぞれなので、「もったいない」と思うかどうかは価値があると思うかどうかによるからです。日本人は他の民族が無価値とみなすようなものに価値を見いだすことができ、多くの人がその気持ちに共感できる部分があるから、この言葉が存在するのだと思います。それは作ってくれた人への感謝や、自然の恵みへの感謝、長い期間大切にしようとする気持ちがあるからだと思います。

姉が高校のプレゼンテーションの課題をしている時に、ワンガリ・マータイさんについて調べていて彼女の存在を知りました。環境保護活動の功績がたたえられてノーベル平和賞を受賞したマータイさんは日本語の「もったいない」という言葉にとっても感動したそうです。それは「もったいない」という一言に地球環境を脅かす脅威を減らす考え方の3アール（リサイクル、リユース、リデュース）が見事に表現されていたからだそうです。マータイさんはこの3アールにリスペクトを加えて、「もったいない」を環境を守る世界共通語として広めることを提案したそうです。まさにこのリスペクトという感謝をする部分が「もったいない」を日本にしかない言葉にしているのだと思います。

ここ数年、断捨離という言葉をよく聞くようになりました。断捨離とは「不要なものを断り、捨て、ものの執着から離れること」だそうです。「もったいない」と思っていると捨てることができないので、「もったいない」と断捨離はまるで正反対のように思われています。しかし私はそうとは言い切れないと思っています。「もったいない」と思うと、むやみに新しいものを買ったり、捨てることになりそうなものは買おうと思ったりしないからです。自分に必要なものと不要なものをはっきりとさせる断捨離は、自分にとって価値があるものを粗末にしなくなるからです。

かけがえのない自然環境に対する感謝の気持ちを持って、資源のムダ遣いをなくし、使えるものは再利用し、それができないものはリサイクルすることは私たち一人一人が簡単にできる地球環境を守るための活動だと思います。これは「もったいない」という気持ちを持つていれば実現できると思います。これからも、この言葉を大切にしていきたいと思っています。